

平成28年度第1回県・市町村行政懇談会 議事録

日時 平成28年8月23日(火)
午前10時から午後0時20分まで
場所 県庁講堂

1 開会

(小倉元気づくり総本部長)

ただ今から、本年度第1回の県・市町村行政懇談会を開催させていただきます。開会に当たりまして、平井知事からご挨拶申し上げます。

2 開会あいさつ

(平井知事)

皆様、おはようございます。本日はお暑い中、また夏休みも終わりかけた忙しい時期にこうしてお集まりいただきまして、心から感謝を申し上げたいと思います。また、深澤市長会長、小林町村会長をはじめ、市町村長の皆様におかれましては、それぞれの地域の地域おこし、地方創生、そして住民の福祉の向上や産業の振興のために、日ごろ大変な汗をかいて、ご活躍いただいておりますことに心から敬意を表し、感謝を申し上げたいと思います。

今、日本がまた注目される時代に入ってきたと思います。昨日は、リオデジャネイロオリンピックが閉会ということになりました。次はパラリンピックという節目となります。そのときに世界中を驚かせたのは、多分日本のパフォーマンスだったろうと思います。マリオとリオを引っかけてですね、それでスーパーマリオを登場される辺りは、最近の鳥取県のダジャレ戦略に政府も従い始めたかなというふうにも思ったところでございます。安倍総理がマリオに扮して最後に登場したときは、喝采が沸いたわけですが、いろんな意見が飛び交っていますが、称賛する声が多い中でマリオというよりはルイージがよかったんじゃないかと、これよく分からないんですが、別の大きなキャラクターがあるみたいで、そんなような声が上がったり、いずれにいたしましてもクールジャパンを世界に印象づけることができ、いろんな観光客を呼び込む、そういう意味では効果がある演出だったんじゃないかなと思います。

私たち鳥取県も同じように今、分岐点に来ているんだろうと思います。最近も、例えばゲームのキャラクターを使って石田市長がパフォーマンスをされたりとか、そういうように新しい風も吹き始めています。確かにお客さんがやってくるようになりました。

また、この度、9月14日には、いよいよ香港の定期便が米子鬼太郎空港に就航することになります。あわせて10月23日からは、エアソウルにLCC化されまして、米子ソウル便が体制を改めることとなります。今、飛んでおりました上海吉祥航空の便ではありますが、最終的には69%余りということで若干7割を切ったところでありますが、非常に今後、こういうことが続くかどうかは微妙な状況かと思えます。いずれにいたしましても、こうやって世界中が私たちの地域、山陰にも注目し始めている、それを果たして私たちが魅力を持って引きつけることができるのかどうか、その戦略が問われていると思えますし、行動を起こすべきときなんだろうと思えます。だんだんと日本の例えば、宿泊のキャパシティはオーバーフロー気味になってくるはずであります。また、観光地の受け入れの状況からしても、全国的に見て地方の方にむしろシフトした方がいいんじゃないかということがあります。地方創生というような、住むということをとってしてもそうではありますが、1つ、興味深いのは小池百合子都知事が、満員電車をゼロにしようという公約を掲げておられます。もし、あれを本気でやろうと思えば、東京に住み過ぎている人をもっと地方で、別の暮らし方ができるようにしないと、多分解決できないわけであります。

そんなように私たちも、これからいろいろと行動を起こしていくことで、こうした局面を打開して新しい時代を鳥取県側の方に引き込むことができるんじゃないかと思えます。先般明らかにされました国の方の調査によりますと、移住定住でこちらの方に来られた人員は1,952人という

ことになりました。ただ残念ながら、転出者の方も増えている状況でありますし、さらに出生数は98人増と久方ぶりに増えたわけではありますが、残念ながら、亡くられる方こちらの方も増えているわけでごさいます、この辺は、私どもが頑張っって奮闘してやっっていくこととあわせて、また別の視点で、例えば子育て対策充実してきた、いいことだと思ひます。それとあわせて、じや、もっとお年寄りになっても楽しんで暮らせるような状況を作っっていくとか、また、転出しなくともこちらの方で暮らしてみようというインセンティブを持たせるとか、そうした次の手も必要になっってきているんじゃないかなというふうにも思へるところであります。地方創生の石破大臣が閣内を去られたわけではありますが、地方創生の旗が降ろされるわけではないと思ひますし、我々地方側からとりますと、この地方創生はぜひとも続けなければこの国がだめになる。そういう意味で我々はその価値を身をもって証明していかなければならない、そういう時ではないかなというふうに思ひます。

限られた時間ではありますけれども、今日は、市町村長さん全員出席ということでございまして、ぜひ活発な実り多い議論あらんことをお願いを申し上げたいと思ひます。いよいよ鳥取のシンボルの梨が解禁をされ、売り出される日になりました。ぜひ今日の会議、皆様の果実を与えていただきますよう、お願いを申し上げたいと思ひます。どうもありがとうございました。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、ありがとうございます。続きまして、深澤市長会長さま、ご挨拶をお願いいたします。

(深澤鳥取市長)

皆さんおはようございします。鳥取県市長会の会長を仰せつかっております鳥取市長の深澤でございします。どうぞよろしくおひを申し上げます。日ごろより平井知事様をはじめ、県の皆様、また市町村長の皆様には様々な場面で大変お世話になっるところでございまして、心より感謝を申し上げます。本日は、第1回となります市町村懇談会ということで、このような機会を与えていただきましたことに、まずもって心より感謝申し上げる次第でございします。

本日は地方創生の今後の展開についてと、このことが議題とされておるところでございします。この地方創生の取組を今後一層に、強力に進めていくためには、市町村、県、一層の連携を図っってしっかりと取組んでいくと、そのことにより県民の皆様のご期待に答えていけると、このように考へておるところでございします。本日の懇談会、有意義な意見交換がさしていただけるものと期待をしておるところでございします。この懇談会が今後の鳥取県の地方創生の取組の推進に強力に進めていく1つの契機となっていきますことを心より期待いたしましてご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくおひを申し上げます。

3 議題

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。それでは早速、議題の方に入りたいと思ひますけれども、地方創生の今後の展開ということで、資料の方ですね、意見交換という資料の1～4の資料を配布させておひしております。まず簡単にここを説明させておひして意見交換に入らしていただきたいと思ひます。

1ページ資料の1でございしますけれども、鳥取県の人口動向ということで、昨年のご勢調査の速報値を見ますと、国が推計したデータ、また総合戦略において県が推計したデータよりも縮小幅が小さくなっっていると、いい方向に向いておるという結果でございします。ただ、自然増減を見ても社会増減を見ても減少傾向にある。ただ、喜ばしいことは出生数が増えきておるといふようなこともございします。一番喫緊の課題といひますのは、20代前半の若者の流出が多い、なかなか20代前半が帰って来ないということが、大きな要素なのかなと思っておひして、そういっったところへのテコ入れといひますか、対策が必要なのかなというふうにおひしておひします。

次に資料の2、3ページでございします。若者の移住定住・県内就職の促進についてということ

でペーパーをつけております。情報発信の促進ということで、これまでもSNSを活用した情報でありますとか、企業経営者による講演・企業見学会などインターシップを含めて、いろいろ展開してきているところでございます。また、5月に発行いたしました移住応援メンバーズカードでございますけれども、現在、協賛店舗が800店舗、そして会員が262名ということで、だんだん増えては来ております。ぜひ、市町村の皆様方と一緒にその拡大、これの有効活用に向けて取り組ませていただけたらというふうに思っております。また一番に書いていますけれども、ふるさと回帰支援センター、この7月に有楽町にあります回帰支援センターのリニューアルにあわせまして、相談員を1名配置して移住呼び込み体制を強化したところでございます。ぜひ、一緒にこの窓口の効果的な活用ということもお願いしたいというふうに思っております。

次ページですけれども、県内就職の取組強化ということでございます。このたびの経済対策にも盛り込まれておりますけれども、地方創生インターンシップの推進ということで、若者定着に向けて県外の学生、県内の学生の県内への定着、それをインターンシップというものを介して着実に上げていこうという取組を協力して、連携強化してほしいということ。また若者定着に向けて、人気がありますシェアハウス・ゲストハウス等でございますけれども、その取組も市町村と一緒に取り組ませていただけたらというふうに思っております。

次に資料の3でございますが、今後の子育て支援施策のさらなる推進ということで資料を付けさせていただきます。①で書いております家庭内保育への支援ということでございますが、今年の5月にとっとり型の保育のあり方研究会というものを設置いたしまして、アンケート調査などを踏まえて年内に意見を取りまとめようとしているところでございます。家庭内保育への支援によって子育ての選択肢が広がると、こういうようないい意見もいただいているところでもございます。また、2つ目の幼児教育の無償化でございますけれども、県・市町村が連携いたしまして保育料の無償化を行っているところでございます。国の骨太の方針に幼児教育の無償化を段階的に進めるといようなことも盛り込まれているところでございまして、国の動向も見つめながらですね、今後の対策を進めていきたい、一緒に進めていけたらというふうに思っております。

また、保育士の確保でございますが、今年4月に保育所・保育士支援センターを開設いたしました。潜在保育士の再就職、新卒学生の県内就職に向けた支援を実施しているところでございます。一億総活躍、国のプランにも新たなものが、処遇改善等のことが盛り込まれております。更なる取組を一緒に検討させていただけたらというふうにも思っているところでもございます。

最後、資料の4観光振興でございます。知事のご挨拶もございましたけれども、9月、10月に、米子香港便、米子ソウル便、エアソウルでございますけれども、これが就航いたします。観光プロモーション、ファームツアーなど考えられることを市町村と一緒に連携強化して取り組んでいきたい。また、受け入れ環境の充実ということで、現在、団体旅行から個人旅行にシフトしつつあります。顕著にその動向が見えている部分、この段階で、2次交通であるとか、多言語表記、接客対応、Wi-Fiとか受け入れ体制の整備を進めていきたいということ、また、観光素材の掘り起こしということで、山陰インバウンド機構、山陰初の広域DMOでございますけれども、この設置でありますとか、広域観光ルートへの道、山陰をフルに活用した新たな周遊ルートの肉付けでありますとか、創出でありますとか、山陰のブランドづくりそういったものを一緒になって作り上げていただけたら、また、地域DMOの設立についても、中部はもう設立されておりますけれども、よろしくお願ひしたいというふうに思っております。以上かいつまんで説明をさせていただきましたけれども、これからの意見交換の1つの材料としていただければと思っております。それでは早速に、意見交換に入らせていただきたいと思います。どなたでもよろしいですけど、まず口火を。倉吉市長。

(石田倉吉市長)

ご指名をいただきましたんで、この資料にも書いてあるんですけども、人口をいかに増やしていくかというときに、人口が減っている大きな要素として、高校を出たときに、進学や就職、就職はある意味しょうがないのかもしれないんですけど、進学で都会に出られた方がなかなか4年

後、あるいは2年後に帰って来ないという現状があるわけですが、この部分その大学に在学している人、あるいは帰って来る意思がある方にきちっと情報を届けるシステムというか、そのときに、以前ですと、同窓会の情報というのはかなりオープンになっていて、そういう同窓会名簿を使ったりして、情報を届けるというやり方が可能だったわけですが、最近は個人情報の保護という面があって、なかなかそういうことができない現状があって、非常にもどかしい思いをしとるんですけども、そういう面で同窓会が同窓会の情報として流すのであれば、可能なんじゃないかなあという気がしますので、例えば同窓会を支援することで、ダイレクトに学生さんや都会で働いている方に情報を届けていくという、そういう仕組みができないかなあというような気持ちも持っていて、先日もある学校の同窓会で、ぜひ同窓会の方の支援もいただきたいというお話もさせていただいたんですけど、はかばかしい反応がなかったんですけど、教育長さんの教育委員会のご協力もいただいて、何かそういう仕組みができないかなあという思いがしていますので、また、ご検討をいただければありがたいかなというふうに思います。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、ありがとうございます。続きまして三朝町長さん。

(吉田三朝町長)

台風の状況をテレビで見ながら、鳥取県はここ近年災害が非常にない県として全国に知れつつあると思っています。やはり人間の力というのは限界がありますから、そうしたところに人は、安心できる場所に人は動いていくんだろうというふうに思っていますんで、必ず日本中の人達が動く時代に入って、人口の問題等についても今後、非常に期待が持てると思っています。昨夜、茨城の大洗町長の所へ電話を入れて、大丈夫かと言ったら、今、対策本部を解散して家に帰りかけたところだというようなことを言っておりました。太平洋高気圧が非常に強くないもんですから、生まれた台風が早く右周りをして東北から北海道の方へ行く、こんなことはずっと以前は考えられないことであつたと思っていますね、北海道に台風が乗り上げるというのはまず、ですから北海道はこの夏の非常に涼しい北海道で観光客の方に大いにいらっしゃいと言っておったんですが、はて、川の断面が非常に少ないということを北海道では、今、そのことを提起しておるのではないかとと思っています。

そうした災害に対する備えも併せて充実をさせていくことが、観光でいらっしゃいと言って人を呼び込んでいくことに、安心して繋がって行くのではないかとと思っています。ぜひ今後の河川の流量断面等については、やはりそれぞれの小さな河川であっても、点検をしていかなければいけないかと思ってテレビを見ているところでございます。以上です。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。引き続きまして湯梨浜町長さん。

(宮脇湯梨浜町長)

今日の議題には挙がっているようなんですけども、保育士の確保ということがございました。たまたま、今、来年の我が町の保育士の町村会でやっていただく試験なんですけども、締め切ったところが応募者が3名ということで、何かものすごく近年になく少ない数字で全員合格しなければならないような数字が出てきておまして、試験の結果、それを見てまた判断することになるんですけども、そういう観点から考えますときに、保育士の1つは給与の見直しということが盛んに叫ばれておまして、実は臨時的任用職員につきましては、おおかたの市町が一般職の職員よりも賃金は高く、我が町も5. 数%ぐらいは高く設定しております。これは、看護師なんかは確保し難い職種と同じような考え方でやっておるわけなんですけれども、考えてみますと、その保育士が不足したしたそもその理由というのは、要するに未満児の受け入れを始めて、絶対数が必要になったということが根っ子にあって、私共がやっておりますその家庭内子育て支援で

すね、これにつきましても、今年から、実は町民の要望等もありまして、1歳6か月まで伸ばしました。

それで、それをやることのメリットは家庭内保育で親がきちんと子供を育てようということが基本にあるんですけども、反射的には保育士の数を減らすことにも繋がるというようなこともございまして、より積極的に維持して進めていきたいというふうに考えているところでございます。1つのその給与のことを持ち出しましたのは、今日これからご議論あるかと思えますけれども、いわゆる職員の分ですね、正職員の分について、これから我々自身がどうしていくかということのある意味考えなければならぬわけですし、その辺のまた議論もどっかでできればいいのかなあということを感じております。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、ありがとうございます。それでは琴浦町長さん。

(山下琴浦町長)

琴浦町は農業の後継者、若いやる気のある農業後継者の人材をどのように確保するかということで、具体的には小学校の統合ということで、中山間地域の、とてもいい木造の校舎が、今、これといった形での利用がなされていないという状況で、2階の教室部分を細かく区切って、ホテル形式のようなそういう構造にして、農業を目指す人材を一時的に、やっぱり住むところがないといけませんので、1年間、長くて1年間みたいな形でやろうとしておりますし、その設計の予算につきましては、平成27年度の地方創生加速化交付金で認定をいただいております、29年度にその整備費として概算1億円ぐらいを、どういうその補助金の制度を使うのか、あるいは28年度の補正予算の中で魅力的なものがないかみたいなことを模索中でありまして、いずれにしてもそういうことをしようとしておりますし、地域の皆さんとも話し合っていて、大筋そのような方向の確認がなされておるところであります。そこから先、どういうシステムで琴浦町での農業を中心として本当にそこで定着をして自立していけるのかなあという、そういうシステムをどう考えていったらいいのかなあということについては、明確なものをまだ持ち合わせておりませんが、今、その辺のことを課題として認識をして取り組もうとしておるという状況であります。以上です。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、北栄町長さん。

(松本北栄町長)

若者の県内の就職の促進についてということで議題に載っているわけですが、実は、先週、町内に進出している企業さん、京阪神、それから中京であります、ずっと回ってまいりましたが、景気の方はそれぞれいいところと、現状だというようなところとあるわけですが、その職員を募集してもなかなか集まらないというのは、どの企業もあったところとあります。高校等にそういう募集をしても1人もそういう応募がなかったということでございまして、その学校の方もやはり大手の方からどうもその斡旋をといひますか、紹介をするようございまして、なかなかその中小企業の方には回って来ないようなことがございました。我々としても、やはりその地域に在る企業ですので、やはりその企業が困ることになれば大変なことになりますので、何とかしないといけんということで、今までもその企業を紹介するような冊子を作ったりとか、あるいは町報にその企業の案内をしたりとか、それから県も書いてありますが、インターンシップ、そういうものを町独自でもやったりしておるわけですが、なかなかそういう人材が集まらないというようなことがありました。

それから、もう1つは、やはりもの作りといひますか、そういうものをする子供といひますか、学校といひますか、そういうのがだんだん少なくなって来ているのではないかなあということで、

たいへん危惧されておりました、やはりそういう物作りをしないとやっぱりいけないというようなことで言われておりました、そういうところも、学校の方も職業高校の充実というのもある必要はあるのではないかと強く痛感したところでありますし、また、高校のそういう進路といいますか、就職の指導等も県内にもこういういいところがあるぞということで、ぜひ紹介をしていただきたいなど、こう思ったところであります。

それからもう1つ、インバウンドでございますが、ふるさと館が我が町にあるわけでありまして、平日になりますと、日本人より外国人の方が多いいという状況にあるわけでありまして、特に今年は海外版のミステリーツアーもしております、今後また増えて来るのではないかと考えております。そのふるさと館とか、あるいは駅周辺でもWi-Fiの施設の整備がしてあるわけですが、それを離れると、なかなか整備していないと、かなり費用もかかるというようなことでございまして、していないところではありますが、海外から来られる方はスマホとか使って、いろんな情報を仕入れる中で来られるわけでありまして、やっぱり鳥取県内、全てWi-Fiが使えるぞというようなことで、整備されたらどうかなどこう思っているところでございまして、また、どうしてもやっぱり多言語化というのが必要になって来るんだろうと聞いております。我々のところもしておりますし、県の方の補助金をもらってしているところではありますが、いろんなところにやっぱりそういうものをする必要はあるのではないかなとこう思っておるところであります。

それから、香港便が就航するわけでありまして。その中で、例えば機内でそういう鳥取県のことをPRするようなビデオを流していくとか、そういうものも必要だろうなあとこう思っているところでもあります。結構その外国の方は、行こうかということがあるわけでありまして、そういうビデオ等を、機内のビデオ等を見て、じゃあ、ここに行こう、あそこに行こうということ、急遽決められる方が多いというようなことも伺っておりますので、そのものを流してこの鳥取県に旅を、そういうのを観光施設に来ていただくということをしてPRして流してはどうか、というようなことを思っているところであります。はい、以上で終わります。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。いろいろな意見をいただいたところですが、こちらの方で、じゃあ知事の方でお願いします。

(平井知事)

はい。まだまだ市町村長さんたくさんおられますので、きょうは普段よりゆっくり目に意見交換の時間を取っておりますので、ぜひ忌憚なくお話をいただければと思います。石田市長の方からUターンのアイデアとして同窓会の活用ということがございました。これ、我々もいろんなところで聞く話でありまして、ちょっと後で山本教育長の方からも話をしてもらおうかとは思いますが、賛成でございます。同窓会の方だとか、上手に使っているところでは、例えば米子高専なんかは、結構同窓会組織がしっかりしてまして、その同窓会組織とちょっと連動しながら人材を供給してもらおうということも一部やってきたこともございます。それは、例えばいろんな学校がございまして、そのところを活用したり、あるいは様々な個人情報ということもあるかも知れませんが、目的手段によってはそこを使わせてもらうということもあってもいいだろうと思います。例えば、就職情報であれば同窓会の加入しているOB、OGの皆さんのために役に立つ情報提供でございますので、そういう目的で使うということであれば、それはあらかじめ断りしながら、同窓会名簿を作っていればいいのかもあとも思ったりも最近してございまして、いろいろと工夫を考えてみたいと思います。

次に三朝町長の方から災害のお話がありました。吉田町長からたびたびこういう災害のお話がございますし、河川の管理の大切さということもご指摘をいただいております。これはまず地域づくり前提でありますので、最大限、危険箇所などをつぶしていきたいということは今後も展開をしていければというふうに思います。先般、島根県内で石が道路に落ちてきて、それで若い女性が亡くなるという痛ましい事故がございました。早速、県の方でも全県、県道関係点検をして

いますと、若干、浮石というような状態があったりするところ、見つかりまして、この辺応急処置をして、さらにそれぞれの対策を今後考えていくということだと思っております。事程左様でありまして、決して花崗岩質が中心の我々の所管している鳥取県内、安全なところばかりでもございませんで、ただ限られた財政資源の中でやっていくわけでありますから、ここを優先的にやろうということ、ぜひ地元とも示し合わせながら進めていきたいと思っております。

次に宮脇町長の方からお話がありました。この後、また、いろいろ議論が出るかもしれませんが、国の方で経済対策打っております。それで、その経済対策の中に、町長お話の処遇改善も入っております。基本的には平成29年の当初でないかなと思っておりますが、そうした対策をいずれ総理がリオから帰ってくれば経済対策まとめらるでしょうから、それに注目をしながら連携を取ってやっていければと思います。私も正職員化など、そうした課題というのが国全体で音頭を取って一億総活躍社会ということを標榜していますので、いずれ避けて通れない課題ではないかなとも思います。ですから、これは保育所の方なので市町村の課題かと思いますが、ぜひそうした取組をしていただけるとありがたいと思います。また、家庭内子育ての支援でありますけれども、今、各市町村長さんにも、ある程度意見をお伺いをしながら研究会を進めているところでもあります。今のところそうした新しい子育て支援、単なる保育料の無償化でない家庭内での子育て支給、現金支給ということについて前向きなご意見も多いところではありますが、一部自治体の中に慎重に検討すべきでないかというご意見も、今あるようございまして、もうしばらくこの研究会をしながら、取りまとめをしまいたいと思っております。皆様のご意見も、ぜひお伺いをしたいところです。

それから、山下町長の方から農業人材の受け入れを小学校の校舎を活用するというお話がありました。最近も寺谷町長のところで学校施設を活用して居住の受け入れということを進めるところもございまして、また、増原町長のところのように、そういう一時的に住む住宅を建てられたところだとか、いろんなアイデアも出されているところでもあります。そうしたことで、地元とお話を、ぜひ、していただいて、地方創生の仕組みを活用する、私どもお手伝いできればと思います。

先ほどの経済対策の中で900億円の地方創生の交付金の拡充があります。この900億円はハードものと言われております。それで、ソフトと併せてハードをアイデアとして出すときに、この900億円が活用されるということでありまして、そこを上手に仕立てて、今年度の補正で狙っていく手もあるのかなと思いつつ伺っていました。また、これ個別的に相談をさせていただければと思います。

松本町長の方からは、今喫緊の課題である人材不足のお話がありました。県もこの9月補正以降で、そういうインターンシップの充実等々の対策を取ろうとしていますが、どうしても各市町村の個別の企業さんまで上手に届くかどうかということもありますので、そういうの、地元でもやっていただくのはありがたいと思いつつ、それを上手にネットワーク化して、子供たちが地元こんな企業があるんだなというのを分かっていただけのチャンスになればと思います。

また、外国人の観光客がこれから増えるわけでありまして、それで、その方々が満足していかないと続かないということになります。最近温泉地での外国人の数も増えておりますし、今のコナンの里の回りもそうございまして、大分様相が変わってきています。そういう意味でWi-Fiの整備は観光地を中心に重点的に整備をしていこうと、今、しておりまして、今ご指摘いただいたように、それぞれの地域で進展もしてきています。全部の圏域をWi-Fiにするというのはさすがにこれ無理だと思いますが、神戸市さんなんかは、独自のWi-Fi整備を地域でかなり広範囲にやっているとありますけれども、相当投資も必要でありますし、当面観光客が立ち入るようなところを中心にやるのがいいのかなと思っております。鳥取砂丘も今ポケモンGOとかと連帯してスマホゲーム解放区としましたら大体1割、2割ぐらいお客さんが増えて、土産物も相当売れているということではありますが、その裏には砂丘はWi-Fiを設置していたということがございまして、そこまでサービスしてくれるのかというぐらいに、そこは効果があったところではないかと思っております。またそのほかにも多言語化であるとか、機内でのご紹介ということもありました。今、機

内誌で香港航空では先行PRをしてもらっています。ビデオも可能かどうかとか今後もよく打ち合わせをさせていただきたいと思いますし、多言語化などについても、これ県の方でもこの9月補正予算でご指摘もありましたので、考えてみたいと思います。

(山本教育長)

私の方から2点、話をさせていただきたいと思います。初めに石田市長からお話のあったUターンの学生への情報提供の手法ということで、確かに個人情報の壁がありまして、今も商工労働部と教育委員会連携をして、卒業するまでに生徒の方に卒業後に鳥取の情報でありますとか就職情報、そうしたものをお届けするという前提で、例えば連絡先を聞いたりというような取組はやってきておるところでございますが、先ほどご提案がありました同窓会の組織を上手に活用できないかということにつきましては、私もなるほどなという点もございますので、ぜひこれ、学校長は必ず同窓会には顔を出したりしていろいろ話をしますので、学校長等通じてそうした取組ができないか、相談をかけたいというふうに思っております。また、松本町長からなかなか募集しても応募がないというようなことも含めてお話がありました。ぜひ、生徒だったり保護者の方、それから進路指導に当たる教職員に、地元の企業のことをしっかりと知ってほしいと私も思っております。ここ今、商工労働部と連携をしてそうした企業見学会でありますとか、パンフレット作ったりというようなこと、取組を始めておりますので、ぜひお話のことも含めて取組を行っていきたく思っておりますし、職業教育をしっかりと充実をさせていきたいと考えております。以上でございます。

(小倉元気づくり総本部長)

はい。今までの議論において何か関連してということでご意見よろしいですか。ご指名させていただきますのでよろしいでしょうか。じゃ、岩美町長。

(榎本岩美町長)

900億のハードを含んだ補正のお話も伺ったんですけども、うちばかりなのかもしれませんがけれども、28年のこの2分の1になった交付金は非常に使いにくいです。よそは商売で使ってもらえるのかも分からんけれども、何とかならんだろうかと、過疎債の方がずいぶんええなど。それから一億総活躍の女性の復職はいいですけども、子育てと非常に関連をして、家庭内保育などは、もっと早くに国を挙げてやっていただきたいと思います。一次産業やなんかは、農業だとか漁業だとか林業もそうですけれども、育休なんてない、なかなか。酪農やなんかでヘルパーの制度もあったりするんですけども、現実にはあまりうまくいってないと思うし、それから育児休業の制度を、もっと国を挙げて徹底的に民間の企業をもっともっと加速させんといけんと思っております。公務員は3年最長取れるという実情の中で、民間は本当にそれだけ休ましてくれる会社なんか、無給であってもないと思っております、あるところもあるかもわかりませんが。総合職でという話は大変きれいな話だけれども、非常に地域でそういうアンバランスな状況があることが一番問題だと思っております。地方に行けば行くほどそういったことが顕著だと思います、都会もそうなのかもわかりません。

それから家庭内、保育士の処遇は決して悪くないと私は思っております。むしろそれぞれの保育所を経営しておられる各市町村が臨時職員で対応しとるんです。それは時間外保育のこともあれば土曜の保育のこともある、日曜日も保育をしてほしいという要望もあるんです。でもね、やっぱり家庭保育をして1歳までぐらいは本当に母親、両親が育てていくということがないと本当に成長が、いい成長が望めるのかなというふうに思っており、大変危惧をしております。やっぱり我々正職採りたいですけども、保育について措置費というかたちでずっときた経過の中で、そのところの中で何とかこのやり繰りをするので、臨時職員に頼らざるを得ん実状がありますので、もっと補助金もあるわけですけども、いろいろな加配の補助金等もあるわけですけども、もっと充実をしてもらって正職員が整うようにしてほしいと思っております。どんどん都会

の方に保育士も行ってしまいう実情がありますので、そうは言いながら保育士の賃金というのも横にらみをしたくないといけんことあると思います。

それから、実は昨日コリドー21 というやつ、これ 20 年間続けてきておまして、考えてみれば今の地方創生のテーマをずっと我々は取り組んできたと思っております。短期的な部分では非常に5年ではできる話じゃないなと思っておりますので、そこら辺、国にもっと抜本的などうか、長期的なことではないと、普通の補助制度みたいな考え方で、5年みたいなことでは自治体も取組がなかなか難しいと思っております。ようけ言ってますみません。

それから、ちょっとうちの話させていただくと、還暦の集いというのを団塊の世代が60歳になることを契機にして、現実には21年、22年生まれはやりませんでしたけど、23年生まれから補助をしてきて9年続けてまいりました。去年は同窓会に補助金を出そうということで、それも50未満の者に限るということで会場が岩美町で整わなかったら鳥取市からでもええということで同窓会をしました。それで同窓会を集めるのに、非常にこれ先ほども話がありましたけど困りました。それで、やっぱりうちは9町村ありますので9町村に幹事役をお願いをして留守の家に当たってもら、出身したうちにですね、そこまでして始めた制度でありますけれども、もう1つは、この同窓会には婚活という狙いもありまして、あんた独身か、私も独身みたいな話があればええと。ちょっと結果のほどはつかんでおりませんが、そういう思いで同窓会を始めました。去年は4組の、4学年の実績がありました。そんな取組を紹介させていただきたいと思っております。特に前段の部分だけ見解をお聞かせいただければと思います。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、ありがとうございます。じゃ、智頭町長さん。

(寺谷智頭町長)

はい。最初知事のごあいさつの中に、石破大臣がお辞めになって、しかし地方創生というのはどうしても続けなきゃいかん。まさに私もそのとおりだと思ひまして、何となくその一億総活躍の方にシフトされるような雰囲気がないでもないのかなと思ひながらも、やっぱり鳥取県のために石破大臣も一肌も二肌も脱いでいただいたという、そういう中でご恩に報いなきゃいかん。そのためにはやっぱりこの地方創生というものの火を消しては絶対だめだなど、そんなことを思ひながら、私の方では移住定住というテーマの中で、定住の場合、若者が智頭町から出ていくというのを聞いて、塩漬けになっておりました町有地がありましたんで、これを無償で提供すると、あんたたち住み着くかと言ったところが、当然住みますと。土地がないから出ていくんだということで、無償でやったところが、3組若者が定住。それで、その3組が結婚してプラス3になった。それでまた子供ができて1人ずつ、プラス3。ただ放っておきますとマイナス3がプラス9になったという、そういう2年前の実績がありますんで、この移住の場合、2棟建てました。それで応募したところが、もう殺到したと。それで県外から、それでこれ仕方ない、くじ引きでしましたけども、その2棟に夫婦とそれから子供3人、それからもう1組は子供2人かな、これがくじ引きで当たったと。

それで、たまたま姫鳥線が出来たときに、トンネルの残土を智頭町に捨てさせてくれということがありまして、山の谷間にそれを、残土を捨てたと。それで広い土地ができておりますんで、そこにあと24、25棟は建てられるスペースがあると。それで来い、来いというばかりではだめなんで、本気で来るなら20年間住んだらもう土地も建物も無償であげるよということ。それから93%の山ですから、移住の人が、大半が今のところは山に興味を持っている人が、若者が智頭に入っております。そこで鳥大の林業を退官された先生に、智頭町に夫婦で住んでちょうだいと、それで移住してもらいました。それで、その先生に、山人塾というのを作って、それで要するに都会から来た子供というの、若者はいきなり山の仕事はできないと。それで、だからこれが杉の木だ、ヒノキだ、やれ、この植物の名前はどうか、このキノコの名前はどうか、鹿の捕り方、猪の捌き方、何でもいい、遊びながらそういうそのグループを作って、それで、結構これ若者が

そういうことを催ししますと県外から40人ぐらい来ています。それで、その中で見込みのある、よし、じゃここに、智頭町で林業をやりたいというのは、次のステップは自伐林家のグループの、今13名ぐらいおりますけども、これはバリバリの山仕事ができる、そういう若者のグループにシフトすると。そして、今智頭町で、高齢者社会で息子は東京、次男は大阪、もう帰ってこない、山がある、自分もだんだんあの世行きという方が多いんですね。そういう方に声をかけて山林バンクというのを作りました。それで、新たな山を町に寄付するか、もしくは安いお金でちょうだいと。それで、その寄付された、あるいは安いお金で買ったのを自伐林家の連中に無償であげると。これでいわゆる商いのいわゆる土台を作れというようなこと。それで、ほんとに林業をやりたいならば、いわゆる土地も、建物も無償提供しようと。やっぱりやるからには、来い、来い、出るな、出るなばかりじゃなくて、やっぱり町も傷みを感じなきゃいかんなど。それぐらいしないとやっぱりお互いが本物にならないかなと、こんなふうなことで、ちょっと荒っぽい、荒っぽいやり方でやって議会といつもこっつんこしていますけど、それはさておいて、かなりそういう方が今、智頭町に入ってきていただいております。

それからもう1つは森のようちえんですけども、これもかなり申し込みがありまして、空き家を改造するとなかなかお金がかかるし、水周りが。思い切ってシェアハウスということで、県からも補助いただきました。それで、これをもう少し広げてそういうのをやればかなり受け入れが楽になるんじゃないかなと。そんなような状況で、いずれにしても93%の金にならない山をどう持ち堪えるかというのが、私どもの課題でして、地方創生というテーマの中で山が蘇ったというようなことで石破大臣に恩返しをしたいなというようなことを考えております。以上です。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。八頭町長さん。

(吉田八頭町長)

はい。冒頭のあいさつで知事さんの梨の出荷というお話がございました。八頭町ではきのう、うちの方も広域の選果場で出荷式がありました。これから梨が終わりましたら柿になるということでもあります。町の基幹産業ということは農業ということでございまして、その中で、昨年からですかね、7反のその八東地域の西条柿の木を切りたいというようなお話がございました。それで立派なそれこそ果樹園でございまして、町とすればぜひとも継続をしていただきたいというような中で、その果樹園を継続する方法ということも28年度考えました。基本的にはその地域のグループの皆さんに最終的に世話になったということもございまして、やはり7反という面積であればなかなかお一人やお二人ではできないということがございまして、本当に今年の場合にはその地域の皆さんにお世話になって、消毒から草刈りから今行っているというところでもあります。そんな中で、やはり無償ということになりませんので、最低限かかった費用については町の方で負担をさせていただくというようなことで、今、取組を進めておりますし、そういった中で販売ということになりますので、そのあたりの最終的な調整というのが必要になろうというふうに思っておりますが、やはり、今、後継者なり担い手というのがほんとに少なくなっております。そういった中で公社というのものもあるんですが、そういった部分も活用して何とかほんとに担い手の皆さんが育たないかなということも今、八頭の事務所等とも協議もさせていただいております。今一緒になって考えていただけたらというふうに思っているところであります。ほんとになかなか1年、2年でそれこそ果樹の後継者というのができないというのが今の姿だと思っておりますので、少し長期戦にはなるかと思いますが、そういった柿であれ、梨であれ、それこそ切ってしまったらそれこそおしまいになりますので、やはり町の基幹産業であるということも基本にして、そういった面についてもこれからも力を入れていきたいというふうに思っているところであります。

それから子育てのお話もございました。ほんとに考えてみますと、地方の子育てというのはもう都会よりはるかに進んでいるというふうに思います。それで育休の充実というお話もご

ございました。ほんとにそうだと思います。そういった地方の中小の企業で公務員並みといいますか、そういった保障があれば地方のその子どもさんというのも増えるのではないかなというふうに思います。中小の企業さんということで大変だろうというふうに思っておりますが、それで、やはり愛情を持って子供を育てるという面からすれば家庭内の保育ということは重要だと思います。そういった中でやはり働かなければそれこそ生活ができないというようなことからすれば、そういったことにもつながるのではないかなというふうにも思っております。こういったことってというのは、やはり子供さんをぜひとも家庭から大事に考えていただければ自ずと答えは出るのではないかなとは思っております。それで、今年に入りまして空き家の申し込みの件数といいますか、すごくそれが増えてまいりました。今年改めて再調査をというふうに思っておるところでして、なかなか空き家の数の方が今、間に合わないというのが今の八頭町の姿でございますし、それから加速化交付金を使わせていただいて、情報発信のDVDといいますか、そういったものを今年作るようにいたしております。県内ということではなくて全国にその八頭町というものがどういう町なんだということをPRしたいということで加速化交付金を活用させていただきたいというところでもあります。Y o u T u b e等で流させていただいて、ほんとに全国の皆さんにどういった町であるということを見ていただけたらというところで、今、その取組を行っているところであります。以上です。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。若桜町長さま。

(小林若桜町長)

はい。若桜町の移住定住問題でございますけども、実は6月に若桜駅前のAコープの2階に移住定住センターを設置させていただきました。ここには相談員が3名おりまして、もっとも民間と一緒にしまして、住民と一緒に移住定住を進めていこうかという考えをしております。空き家対策なんかにつきましても住民の皆さんのやはり情報をどんどんいただくというようなことをやっておるところでもございまして、そのセンターでは、今、普段はやはり相談業務が主なんですけども、移住して来られましたママさんの会とか、あるいは地域おこし協力隊の皆さんの懇談とか、いろんなことを皆さんの意見を聞きながら仕事を進めておるところでもございます。そういう中で、やはり私達、保育士がちょっと不足しております。実は今年の採用状況を見ますと、何と、若桜町に6人応募してきていただいております。私この中で少し採用させていただきたいなあということを思っておるところでございますし、中には男性の方もございまして、ちょっと喜んでおられるようなことでもございます。それから、移住される方で今希望が保健師がないんですけども、ちょっと40代ですけども、保健師はどうでしょうかという方もございますし、ちょっと病後児保育も遅れております。看護師もいるしなど。看護師の方も移住定住の中に30代の方がおられますし、こういう方、すぐに採用ということにはなりませんけども、非常勤の特別職とかそういうような扱いをしながらやって行ったらどうかなという考えを持っているところでもございまして、非常に少しずつではございますけども進展をしてきておるといようなことでもございますし、一番良かったのは子育て支援センターをわかさこども園に併設をいたしました。これは非常にやっぱり効果がありまして、毎日子どもさんを連れて来ていただいたりしております。園児のそういうようなことを見ながら、というようなことで非常に効果があったかなということを思っているところでもございます。

今年度も若者住宅を2棟建設させていただきました。今、ちょうど発注しているところでもございますけども、月額2万5,000円ですけども、18歳未満の子どもが1人おれば5,000円、3人おれば1万5,000円カットしますから、新しい3DKに1万円で3人おれば入れるというようなことでもございまして、そういう面で、実はこれも地方創生からちょっと落ちたんですけども、過疎対策事業債で拾っていただきまして、非常に、去年、一昨年も、建ったんですけども、非常に好評でございまして、ある方は、若桜町がこういう政策をされるんなら、私たち若桜から鳥取まで

旦那さんが働くということは、通うことは私は何とも思いませんと、そういうような方もちょこちょこ出てきておられまして、明らかに若桜は奥ですけども、そういうハンデを克服してやるというようなことは非常に大切なことかなということを思っておりまして、保育料無料にいたしましたも、ようやく浸透をしていきまして、若桜の方に来たいということが増えてきております。

ただ、やっぱり一番私も頭が痛いのは、仕事が、旦那さんの仕事がちょっとないということがありまして、町内のところにも斡旋をするんですけども、考えによっては鳥取の河原の団地あたりも近いですから鳥取市の、そういう面で、そういうところを安定所と一緒にしまして斡旋をさせていただいたりとか、そういうことをしておるところでもございます。1つ私が困っておるのは林業の町でございまして、今のところ林業に対して少しそういうようなことが遅れてきておりまして、今、八頭森林とか若桜木材協同組合あたりと一緒にしまして、若い人の受け入れというようなことを今考えておるようなところでもございます。そういうようなところでもございまして、少しずつでございますけども。それから地域おこし協力隊でございまして、環境大学と交流をずっと生徒がしておりましたら、この4月から環境大学の女性が若桜に住みたいということで、1人は山のガイドとか、そういうのを今やっておりますし、もう1人は鹿の解体処理施設に入って、女性が頑張っておられまして、もう3か月も4か月もして聞いてみますとかなり腕を上げておるというようなことで、鉄砲の免許も取られたというような話も聞いておったりいたしまして、大学生と常にやっぱり交流するということは、非常にそういう面ではよかったかなということを思っておるところでもございまして、何とか若桜で一緒になってくれる人があればいいのになというように思っておるような次第でございます。以上でございます。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、ありがとうございます。ここまでお願いします。

(平井知事)

はい。ありがとうございます。榎本町長の方から、まず交付金のあり方の話がありました。これは先般も国の方に要請活動しましたけれども、町村会と一緒にしまして。やはり今回確かに2分の1ということですので使い勝手がどうか、さらには競争性のあるところでありますので、国の方の審査があるということでもあります。今、小林町長が過疎債で上手にやっている例もございましたが、我々としてはしたたかに使える財源を使っていくということだと思っております。片方で、この地方創生もっと使い勝手のいいようにすべきでないかという運動は展開していきたいと思っております。また、家庭内保育をしっかりとというご意見、これ先ほど吉田町長の方からも同じようなお話がございました。先ほどの湯梨浜町長さんとあわせて、皆様の意見の強いところだということで今後研究会にかけさせていただければと思います。また、民間の育休のお話もございまして、これも八頭の方でもお話がありましたが、これはやっぱり我々ちょっと手が出ないところでもありますけども、労働局だとか、基準署だとかそうしたところと、この課題についても話し合いをしてみたいと思っております。だいぶ前にも森安町長からそういう問題提起がありましたけれども、やはり地方ではなかなかそういう休みは取りたくても取れないという実情があるということは、政府の方でも認識していただく必要があると思っております。また、因但コリドーのお話もございましたが5年で終わりにするというのではなくと、昨日も移住定住について実り多い話があったと報道されていましたが、そうした息の長いですね、対策を求めていきたいと思っております。

寺谷町長の方から非常に先進的な森を活かす事例を幾つもいただきました。そういうふうにして地方創生を盛り上げていきたいと思っておりますし、町の方でも言わば汗をかくし、県の方でも森のようちえんだとか、シェアハウスなどきちんとバックアップもしてまいりたいと思っております。自伐林家も割と若い元気な方々が集まられまして、いい流れになっているのかなと思っております。山で飯を食おうという人たちが出てくれば、それで山を活用した暮らしが始まるということだと思っておりますし、最近だいぶ環境が変わってきて木の使い道が増えてきたところでもあります。また、低コスト化を進めようと機械化なども進めて、今動いているところでございまして、そうしたことを

ぜひ、継続してプッシュできればと思います。このたびの9月の補正の中でもこういう森の対策、これも1つ焦点だと思っていて、政府の経済対策も活用しながら盛り込んでいきたいと思えます。

また、吉田町長の方から西条柿の廃園のこの例のお話がありました。今ご指摘ありましたが、果樹は特に後継者が難しい、つまり実がなるまでに5年、7年とかかるものでありますから最初にどうしても担い手になろうとしても収入のない期間ができてしまう。そういう意味で、廃園を活用するというのが1つの方策かなと思えました。県でもやらいや果樹園という事業で、廃園活用の事業を進めております。ぜひ、そうした地元の状況をタイアップして改善をして何とか今よりも生産を拡大していければと思います。今、梨も解禁になりましたが、例えば、新甘泉という新しい梨で言えば、今の10倍作っても売れるというようにマーケットも言い始めているぐらい人気の梨も出てきています。だから、そういう意味で生産体制を徐々にシフトしながら果樹を継続していける、そんな農業が鳥取らしい農業かなと思えますので、これよくまたお話も聞かせていただき、県の方の政策的なバックアップも進めていきたいと思えます。また、空き家が不足しているというお話がありました。空き家対策を進めることが国の法律も出来まして市町村も要になって権限もあり、始められたところでもあります。特に地方創生で、今、移住者が鳥取県を目指してきている状況がございまして、やはり家の問題が1つのポイントになるかと思えます。これ、ぜひ、掘り起こしていただき、県の方も交付金も、もし必要があれば使いやすいようにまた変更もさせていただきますので進めていただければと思います。あと、鳥取でのこういう暮らし方の素晴らしさ、それをDVDでPRしようというお話がございましたが、県もこのたび、短編映画を作って少し鳥取らしい住み方、暮らし方、絆を活かして暮らしていくことの素晴らしさを地域の映像を交えてPRしていこうかなと考えております。

小林町村会長の方からは保育士のお話などございましたが、なかなか保育料無料化で子供さんが増えてきてどうやって保育士探すかというお話があった、聞いておったもので、6人も応募があったというのは大変に嬉しい話だなと思えました。やはり積極的に、若者住宅であるとか、保育体制であるとか仕掛けてきたことが、今こうして結実しているのかなと思えます。そういう中で問題提起がありました林業のお話、さっき智頭町長のところでも申し上げましたが、この辺も1つのポイントとして9月の補正の中でも対策を取ってまいりたいと思えます。また、就業先については広域的に考えていただくのも1つかなと思えます。我々が考えるほどに都会から移住される方は20分、30分車で通っても何とも思わないわけでありますので、十分通勤範囲もできようかと思えます。西部の方では誘致企業の定住先として、定住先といいますか、雇用先として出身のところで雇用助成をしようというようにして定住を広域的にやっているところもございまして、そんな意味で、仕事の面でも連携も進めていければと思います。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、それでは引き続き進めたいと思えます。米子市長さま。

(野坂米子市長)

地方創生ってということ何ぞや、ということですがけれども、経済の活性化、産業の振興、子育てしやすい環境を作る、また移住定住の促進といったところが地方創生の大きな柱だったんじゃないかと思うんですけども、そう考えますと、どれも実は今までもずっとやってきた政策でして、いずれにせよ、今までもやってきた課題であるし、これからもやっていかなきゃいかんということで、地方創生というものができて、最初、先行型交付金、加速化交付金、今度推進交付金という形になってきたわけですけども、先ほど榎本町長さんもおっしゃいましたけども、だんだん使いづらくなってきていると、結局今までやっていた、財源の中でやっていたことを新たな財源もいただいて、今までなかなかできなかったことにも取り組めるというのが1つの地方創生の私どもから見た場合に大きなメリットだったんじゃないかと思うんですけども、なかなか使いづらいいということもありますんで、その辺、またみんなで考えていかなきゃいかんんじゃないかと思

っております。

それで、私どもから見て、じゃ、地方創生をどう進めていくかということですけども、もちろんこの3つの課題とも今後とも続けていくわけですけども、特にこの最近というか、ここ数年で見た場合ですね、また、大山町長さんの方からも当然お話があると思うんですけども、大山開山1300年祭が平成30年にあると、それから先ほど知事もおっしゃいましたLCC、ソウル便のLCC化とかですね、それから香港便も来るということもありますし、そういう意味でのインバウンドをどうするかということもありますし、また、国内でもデスティネーションキャンペーンとか、それから大山国立公園満喫プロジェクト、日本遺産にも認定といういろんなプラスの要因がいろいろ出てきていますんで、少なくとも平成30年、まずはその間、近々のところを見た場合に、やっぱり大山をいかに上手く使って観光振興につなげていくかというのが私どもにとって大きな課題じゃないかというふうには思っております。県の方でもいろいろ今、連携してやっていただいておりますんで、また今後ともよろしくお話ししたいということでございます。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、続きまして境港市長さま。

(中村境港市長)

特に、私、子育て支援についてちょっと申し上げたいと思っておりますが、私どもも子育てするなら境港という看板を掲げていろいろな施策に取り組んでおるところであります。一番子育て世代に負担になるのが保育料の負担ですね、これについても年間5,000万程度の軽減もしておりますし、県と連携をして無償化の取り組みもしておるところであります。私はこれまでも何回か申し上げたことがあるんですが、この少子化という問題ですね、これを地方の知恵、地方にリードをしてこの少子化対策が進められているような、僕はそういった受け止め方をしている。先般、死ぬというような言葉を使った、社会センセーショナルを巻き起こしましたが、それを受けてようやく保育士の処遇の改善の問題だとか、保育料の経済的な負担の問題、国がぼろぼろ、ぼろぼろ出してまったく私はスピード感に欠ける、地方に多いような問題でも私はないと思うんですよ。国の根幹に係る問題だと思いますから、地方で、特に鳥取県はその中でも先進的に取り組んでいるわけでありましてけれども、そういったスピード感をもっと国の方に持ってやっていただきたい、私、本当一生懸命やればやるほど、そういった思いが強くなってくるわけです。この点、全国市長会なんかも通じて上げておりますけれども、都道府県もあわせて、もっと本当に国にスピード感を持って、一番大きな国の課題でありますから、ぜひ、総合的な子育て施策というものをしっかりとやっていただく、このことを申し上げたいという具合に思います。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、ありがとうございます。大山町長さま。

(森田大山町長)

大山町でございます。いつもお世話になっております。ありがとうございます。先ほど大山開山1300年、平成30年の実施ということで、野坂市長さんの方からもお話をいただきました。ありがとうございます。広域観光の視点でお話をされたという具合に思っておりますので、私の方からはそういったことを踏まえて、地元としていろいろな取組を進めているところでありまして、これからいよいよ具体的な形になってくるかなという具合に思っておりますので、そういった場面での力をお願いしたいなと思っております。特に大山の方でも、大山寺の方でも空き家があったり、空き店舗があったりというところでありまして、こういったことへの解消に向けて大山の賑わいプロジェクトであったり、株式会社参道という若いメンバーでの活動というかたちで今進めてきています。この秋あたりからそういった取組を具体的な形にしていくということにステージに入っていこうとしておりまして、間違いなくそういった取組を進めていきますには、県のご指導やご支援をいただかなければならないと思っておりますので、いろいろな形の中でお力を賜り

たいと思っています。

それから、来年、再来年に向けても町でもいろいろな催し物をしておるところでありますけども、29年、30年に向けては拡大バージョン、或いは、充実したバージョンに展開していくということであろうと思っています。山の日が制定されて11日、12日、13日は盆の大献灯の和傘の取組をさせていただきましたが、今年有料という形にさせていただきましたが、3日間で1万人に近いぐらいの人数の方が実は来られたということでありました。来年以降については、これのさらなる拡大ということもありますし、いろいろな形で取組を進めてまいりたいと思っておりますので、ご指導ご支援をお願いしたいと思っております。

あと2点でございますけども、この別冊参考資料の意見交換の7ページの中に、中山間地域への効果的な企業立地促進策ということで、里山オフィスの開設支援の補助金のことがあり、大山町のことにも触れていただいております。いろいろと話を伺っていく中で、やっぱりこれを進めていく中では人材育成ということが大きなテーマという具合に実は担当の方も承知しておるところでありまして、そのオフィスを開設するに当たりましての事前の人材育成へのいわゆる企業塾であったりとか、そういったことを進めていくソフト面での支援策がこの中に入っていればありがたいなと思っております。備品の購入であったり、企業塾を開設するに当たっての人材支援という視点もここに入っているとありがたいなと思っておりますので、この点についてお願いしたいなと思っております。

それから、この資料を見させていただいて、とても素晴らしい事業があるなと思っております。県の商工労働部の方で作っていただいております、「キメタ！鳥取で働こう」というこの資料の一番最後のページに、実は鳥取県技術人材バンクの資料が載っております。特に子育て支援を、子育ての真っ最中の年配の方々であったり、少し都会で頑張ったけども、田舎に帰ってみたいなという意向の方々にとってはとてもこれは素晴らしい制度じゃないかなと思っています。ただ、これが私自身あまり承知しておりませんでしたもので、どれくらいの実績があるのかなと、あるいはどれくらいPRしておられるのかなということを訊ねさせてもらいたいなと思っております。以上です。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、ありがとうございます。南部町長さまお願いします。

(坂本南部町長)

南部町でございます。地方創生の中核に位置づけておりますCCRCについて現状をちょっと報告しておきたいと思っております。昨年は基本構想ということで、県の方に随分お世話になりました。構想を立て、今年は基本計画を現在策定中でございます。それで、南部町のCCRCのフレームというのをちょっと紹介しておきたいと思っておりますけれども、町内に7つ振興協議会があって、この振興協議会からその必要な人材をアンケート調査によってリクエストをしていただきます。それで、そのリクエストの職業の人をふるさと回帰センターだとか、移住促進センターなどに情報提供して都会の方から募集をするというような構想であります。例えば、奥地の方はイノシシが出たりして、大変なんですけど、ハンターが高齢化してなかなかいないというようなことで、ハンターを募集するというようなことであります。そしたら、自衛隊のOBの方が関心を示されておるといようなこと、それから、例えば法勝寺の方では歌舞伎をやっておりますけれども、歌舞伎の指導者を招いて、来ていただいて、法勝寺歌舞伎が田舎芝居にならないようにといような、そういうアンケートで人材をリクエストするということでもあります。

それから、住むところですけども、これはまともって住むという線ではなくて、振興協議会で空き家の調査をしていただきました。180戸の空き家がございます、そこに基本的には住んでいただく。それでコミュニティもその振興協議会で作っていただくといようなことであります。それで、これの世話をするのに、なんぶ里山デザイン機構というNPO法人を立ち上げました。このNPOでこれらのお世話をしていくということでもあります。それから、職業がな

いとなかなか移住定住にはつながっていかないのではないかとということでございます。町の職員を職安の方に2年間派遣しまして、資格取得をいたしまして、無料の職業紹介所をこのなんぶ里山デザイン機構でさせると、ですから、住むところ、それから職業の紹介、それからコミュニティはリクエストしたぐらいですから大切にさせていただくと、もちろんお試し住宅というのを作って、そこでモンスターやいろんな人に来てもらっては困るわけですから、お互いにそこですり合わせをして移住定住につなげていこうという計画であります。それからこれが済まんと何も始まらないのではこれどうしようもないわけでありまして、具体的に若い人にどんどん南部町に来ていただくような仕組みを、今、作っております。

現在、鳥取大学と連携事業をやっております、県のご協力もいただきまして、昨日、まち歩きウォーキングマップづくりというので、5人の鳥大生に来ていただいて5日間泊りがけて地域包括ケアシステムをどのように作っていくのか、そういうウォーキングのマップづくりを取り組んでいただくようにしております。それから、もう1つ、全国の学生連携機構というのがあります。これ一般社団法人で6,000人ぐらいの学生がそこに結集しているわけですが、この学生連携機構と協定をいたしましてさまざまな活動を展開しております。先般は町内の高校生のグループと一緒に、まち歩きしていただいて、天万宿の活性化、拠点づくりの提言をいただいたりしております。そういうお付き合いの中で、町内で来年の春起業するというような、これは長崎の方の大学生でしたけれども、起業するというようなことも起きてまいりまして、大変期待もしております。

それから、もう1点若者関係なんですけれども、青年海外協力隊は2年間海外に出掛けていろんな支援をしているわけですが、帰ってきたときの職がないというようなことがあります。それから、人生が変わって新たな生き方を模索するというようなことがあるわけですが、この青年海外協力隊の経験者2名南部町に来ていただいておりまして、青年海外協力協会の南部事務所というのを開設していただきました。ここで事業をしたり、それから帰国隊員のお世話をするような日本の中の何箇所かのうちの1つの南部事務所ということになったわけでありまして。それで、いろいろな事業を今計画していただいておりまして、そういう海外での貴重な経験をもった人にたくさん来ていただくと、こういうことを進めております。それで、若い人のご意見をちょっといろいろ聞いてみますと、やっぱりその情報通信網の整備、携帯が時々途切れるとかいうようなことを言ひまして、Wi-Fiをとにかく、整備してほしいということを言っております。それは、私も全く同感でありまして、県の方にもぜひこういう情報通信網の整備にお力をいただきたいというふうに思っております。以上です。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、それでは日吉津村長さん。

(石日吉津村長)

なかなかまとまったお話ができないと思いながら、地方創生では待機児童ゼロということを公約にしていますが、やってみましたら結構これ厳しいです。保育需要がかなり皆さんがお困りの方が、住みたいということを言われますので、非常に厳しいなということで、でも、今、何とかその待機児童ゼロを持続させております。その中には保育士が足りないというような課題もあって、保育の質を落としちゃいけない、と思ひながらやっておりますが、何とかやっておりますが、それで、これをどうやって定住につなげるのかということでは、新築住宅の建設購入利息の補助事業等を導入して、これなかなか評判がいいですが、さらに進みますと、土地がないがなということをおっしゃって、小さいエリアですけども、住宅、いわゆる県が規制緩和をしていただいたお蔭で10ヘクタール、今、住宅建設可能地があります。それで、土地所有者の方に、実は将来はこの土地を、皆さんの土地をどんなふうにお使いになられますかということでアンケートをとって、そして住民の、土地をお持ちの方の税法の説明会などをおこなっているという実態があります。それで、この頃で見ますと、娘さんが2人あって、2人の娘さんが幸い2年前に家を建てられ、

また今年この8月に転入して来られたという、家を建てられたということがありますので、住んでいただける条件はこれまで積み重ねてきたものがここに成果として出るとなるといふふうに思っていますので、やっぱり住宅地を適切な価格で提供すれば住んでいただける条件はできると思っ
てはいますが、いかにせんその土地が出てこないということでもありますので、引き続きそんな取組をしていきたいというふうに思っています。

それから、今日皆さん方のご意見を聞く中で、民間の企業の育休が進まないということであり
ました。それは労働省の問題であるということもありましたが、やっぱり企業を定着をさせてい
くためには、ここに一步踏み出すかな、家庭内保育で踏み出していらっしゃる場所もあります
ので、ここに一步踏み出すかなという気がしております。事業者を支援をしていくということでは
ここに一步踏み出してもいいのではないかと気がしておるところであります。ただ、そう
思っただけであります。

それから、今日議題に関わらずということでありましたので、お願いも含めてですが、きのう、
実は日野川の河川の日野川水系大規模氾濫時の減災対策協議会の大体成案ができて、日野川流域
の国交省の管轄でありますので、伯耆町と南部町と日吉津と米子市さんとこの大規模災害の氾濫
におけるその対象人口が7万人の人口が避難をしななければならない、浸水されると、浸水に犯さ
れると、さらに浸水想定も深まったと、不可になったというところで、極端なところは日野川が
氾濫すると10mの水の深さが出るというようなこともあって、これをこの対策協議会の中で、そ
れぞれの自治体がどういふふうに避難計画を立てるのか、そして、その情報をどんなふう
に伝えていくのか、どんなふうに住民の安全を確保するのかというものがひな型で示されま
して、それをフォローアップするのは国土交通省や鳥取県やそれぞれの自治体とフォローアップをしよう
ということになっていまして、いわゆるその構成団体の遅れはもう許さんよという言い方であり
ましたので、これは、大変な課題を突きつけられたなというふう
に城平局長も出席でありましたので、そのことは、住民の安心のことの、この新たなハザードマップなり浸水想定が示されること
によって住民にかなり不安を与えていると思っておりますので、そのことについては、それであっ
ちやならんな。特に自治体が小さいですので、そこを遅れず頑張っていかなければならないとい
うふうに思っていますけれども、その際には、今、課題がまだはっきり、課題がありながらどう
いう整理をしていくのか、整理をする段階での課題がどんなものが出てくるかなという気が
しておりますので、そのときにおそらく県に頼ったり、広域連携の中でお願いをしたりしない
といけん部分が出るのであろうというふうに思っておりますので、その節には1つよろしく
お願いしたいということでのお願いであります。

それから補正予算が出ていますけれども、従来のある省庁では、29年度要望を前倒しをして
やれということが出ています。それで、29年度は採択の可能性がないかもしれんと、前倒しを前提
とするというような言い方があって、それ以降のいわゆる国の補正予算で経済対策という
ことでもありますので、従来の経済対策のように、国が何らかのかたちで市町村がその補正
を取りやすいような対策がまだはっきり出ておらないのかなというふうに思っていますので、
その部分には、知事さんにおいては国の従来の中で補正を取れということはある
と思いますが、さらに経済対策ということでは、市町村が手を出しやすい補正の対策
になることをお願いをしておきたいということでもあります。以上であります。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、じゃ、伯耆町長、お願いできますか。

(森安伯耆町長)

はい。最初に榎本町長が結構、僕の言いたいことをしゃべっておられたんでもうあんまり
ないんですけども、1点というか、その子育てのことだけをしゃべらせていただくとすると、
家庭で保育するということについての支援策を講じて、今、2年目になりますけれども、
知事も会見でお願いしますように、保育士不足とはとりあえず多くの関係にある、これ間
違いないで

すね。特に0歳を預かると3人に1人いるんで、年金給付の方がサービス給付を提供するよりも随分行政効率がありますし、それから保育士不足というものを、現実的な課題についても対応できると、これは間違いないことなんですけど、それ以上に今思っているのは、やっぱりこの少子化に対するいろんな危惧とか、警鐘が鳴らされた時点と比べると、本当に行政内部というか、重要な行政課題なんだけど、行政の中で解決できる課題ではないと思いつつありまして、より企業とか、経済活動の中で危機感を共有していただかないと抜本的なこの問題に対する解決策は出ないだろうと思っています。

ですので、国の子ども子育ての新検討会の中で何人かの議員が提案されたように、やっぱり企業にももう少し危機感を、いわゆる将来的には持続的な企業活動、経済活動という観点での少子化に対する企業の役割というものを感じていただかないとどうにもならんと思ひまして、最低1年は取らせようよと育休を。それで、さらに3分の2、9か月前ですけど、1年間はせめて所定賃金の3分の2をちゃんと出しましょうよというぐらいはやっても企業は損はないと思うんですけどね。そういう危機感の共有、いわゆる社会的な課題に対しての議論の役割という、雇用主でするので、そこらあたりをできればというか、これは政府の仕事だと僕は思うので、知事会なんかでもそういう議論はしていただけると、ちょっとは前進するのかなと。中で、検討会でせつかくあったことなのに実現できてないというのはやっぱり省庁間の力のバランスもあるんでしょうし、そこまでちょっといかないんだろうなと、より強い市町村のまとまりとしてもそうですけど、何かやっぱり議論をさらに深めさせるような力のかけ加減というものが大事だなと思っています。

ですので、私としては、家庭内の保育というものに対して県で支援をしていくということになれば政策的なアピール度というものはものすごく高いと思いますが、それ以上にそういうことをやっている自治体の立場から言うと、やっぱり育休、育児休業についてまず国全体で片付けてほしいなと今はそういう気持ちであります。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、ありがとうございます。これまでのところで、知事お願いできますか。

(平井知事)

まず、野坂市長の方から交付金の話が重ねてありました。きょう、度重ねてこの議論が出ておりました、改めて、強く私どもの意思を国の方にも伝えていく必要があると思います。国の方でもいろいろ交付金の、多少はちょっと不具合を直したりしているのもありました。知事会でも実はこれ問題にしまして、例えばその交付決定が出るまでは使ってはならない、その事業をやってはならないというような制限があったりしましたけれども、それをやられますと、とても年度内に終わるわけがないのでおかしいじゃないかと大分言いました。これ、5月に要綱を国が改めたりしたこともございました。それでもやはり全体として当初よりも少しずつ使いにくくなっている。現に今、交付金を使っている団体の数が、割合が顕著にこの当初予算ぐらいから減ってきておりました、過疎債だとか、ほかにも有利な財源があることもあるんだろうと思いますが、地方創生の将来にも係ることでありまして、これ市長会・町村会とともに改めて声を上げていきたいと思っています。

大山開山1300年につきましては、大山町長さんと一緒にお話ございました。これ、詳細は、きょう西部総合事務所長も来ております。その大山地域のみならずそのほかに関わることでありますので、ちょっと今の状況を報告をさせていただきたいと思っています。これはやはり地元のいろいろな行事、また地元の人材、こういうところがやはり主でやっていくものでありまして、それを全体パッケージにしてどういうふうに応援をしていくかであります。それを支える大体道具立てはできつつありまして、市長の方でお話がありましたデスティネーションキャンペーンであるとか、またJTBの田川会長、県政顧問されていますのでJTBの事業の中でこうした鳥取県の旅などを応援をするそういうデスティネーションキャンペーンのような事業がございまして、

これ同じ平成 30 年にぶつけてもらいたいと強く要請をしております。大分前向きになってきているなというふうには思っているんですが、そうしたことなど旅行業界の方もお付き合いをいただける環境ができつつあります。問題は中身でございまして、なるほど行ってみようというようなそういうインセンティブができるようなそういう地元の盛り上がりと一緒に作っていきたいと思いますので、県も役割りを果たしますのでよろしくお願いを申し上げたいと思います。

また、中村市長の方から少子化対策についてお話がございました。その憤りは我々も感じておりまして、私自身も若手の知事らと子育てを中心とした地方創生を進める知事同盟を創り、13 名で問題提起をしております。それでようやく子育ての支援の交付金ができるとか、結婚の応援をすとか、我々がワーワー言ったことが何年か遅れてやってきているというふうにも思えるぐらい国の方の対応はちょっと遅いなと思います。フランスだとか、北欧だとか見ても分かるんですが、出生率が上がっている裏にはやはり国の方の重点的な政策があります。それで、それがあって初めて親御さんの世代、子育て世代が安心をして子供さんをもうけて楽しい人生を送ること、その決断がつくわけです。今、残念ながら子育てするとお金がかかりそうとか、実際それ以前に出会いがないのだとか、そうした状態がございまして、これやっぱり国家的課題として速やかに捉え直していただく必要があると思います。これも皆さんと共に充分国に訴えかけをしてまいりたいと思います。

それから森田町長の方から大山のお話がございましたが、山道で、今、実際にお店のオープンをしたりして、若い方々が非常に元気を出して初められたことは素晴らしいと思います。ぜひ、そうしたことを、民間企業も応援をしてくださっていますが、私どももタイアップをしてみたいと思います。また、里山オフィスの開設について、これ具体的に多分案件があるんだと思いますが、単に例えば IT の企業を誘致するだけでなく、それに人材育成プログラムをとということだと思います。これは検討させていただきたいと思いますが、もし具体的なちょっと状況があるらしたらお知らせをいただければと思います。

坂本町長の方からは C C R C の非常に意欲的な取組についてご紹介をいただきました。ぜひ、成功に向けていければと思います。今、県内でも湯梨浜町さんと南部町さんが手を挙げていただきまして、南部町さんの方の、人材募集の話とか、NPO 化の話も進めていただいております。我々も下支えとして、全国組織の方に、今、片方で働きかけなどもしておるところであります。だんだん成果が出ようかというタイミングだと思いますので、これから正念場と心得てやってまいりたいと思います。今、お話の中でもいろんなご提案がありましたが、やはり空き家の活用だとか、それから学生人材であるとか、そうしたポイントがあるだろうと思います。この辺は地方創生の今後の取組として、今日も大分ご意見が出たところでございますので、また新年度以降です。その支援など拡充していきたいと思っております。石村長の方から保育についてのご奮闘についてお話がございました。私もまいりましたけれども、非常に子育てには熱心なところで、それがまた住民の皆様の評価そして移住の獲得につながり、実際人口増という結果も生まれるということだと思っております。そういう意味で、1 つには土地の確保という深刻な課題があるということでありまして、規制緩和については都市計画上の問題などもありまして、若干限界もあります。また今後ともよく相談をさせていただきたいと思っております。

家庭内保育について重ねてご指摘もいただきました。

日野川の対策でありますけれども、これはハードとソフトと両面相まって初めて安心が生まれるということで、最近国が非常に力を入れている分野でございます。これ、詳細については山口さんの方ですかね、どっちがいいですか。どっちでもいいですが、あとで適当に今後の考え方を話をいただければと思います。また、予算のあり方について前倒しをすることですけども、これも具体的に項目、個別に相談をさせていただければと思います。多分 28 年度に前倒しができるものがあるのであれば、補正予算で取った方が補正予算債という裏負担の緩和の問題もございまして有利性があるかなと思っております。個別にまたご相談をさせていただければと思います。

それから、森安町長の方から先進的な取組であれば故の重ねてのご提言をいただきました。や

はりこれ労働政策というか、産業政策全体が絡まないとこの問題は上手くいかないわけでありませう。オランダを見てもそうでありませうが、裁量的に働ける時間が確保できるようなワークライフバランスを導入し、それと合わせて同一賃金の労働制というものを導入をする、かなり壮大な計画の中で子育てしやすい地域というのを作っていったわけでありませう。それは政府がやるだけじゃなくて、企業もそれに協力しなければ人材が確保できないという環境の中だったわけでありませう。今、我が国も有効求人倍率が1という状況になってまいりまして、同様な状況が生まれていられると思われませう。そういう意味で政府としても、そうした企業内で保育しやすい環境づくり、育休、せめて今の制度上は取れるところは取らせようということをやすべきだろうと思われませう。これは国の政府の方にも訴えかけをしていきたいと思われませうが、あわせて、先ほど来、同じ話が続いていませうので、地域の課題として労働局だとか、労働基準監督署だとか、そうしたところとも、これ、改めて市町村長さんでもできれば入っていただいて、ワーキングといわれませうか、少し議論をさせていただく場が必要かなと思われませう。また、産業界の代表にも加わるような場、例えば輝く女性活躍加速化とっとり会議というような場があったりしませうし、少し重点的な話し合いをしてみる必要があるかなと思われませう。

（中山西部総合事務所長）

はい。では、私も西部総合事務所で大山1300年の準備委員会の事務を担当させていただいておりますので、あわせて現状を報告させていただきます。先立っての8月1日に準備委員会の事務局を開催いたしまして、議論の深めを行っております。といわれませうのが、4月以降、例えば満喫のプロジェクトですとか、あるいは山陰のDESTINATIONキャンペーンとかいろんな事情変化が、プラスの要素が増えていませうので、それを踏まえながらコンセプトをご提示させていただいております。中では、大山寺さんとかが推進しておられませう大山の祈りの部分と、それから地元資源を活用した大山からの恵みという2つのパートでこの大山1300年を盛り上げていけたらと思われませうしております、その中では、例えば古事記ですとか、あるいは星空とか、自然体験やたら刀剣といった、この西部地域全体の地域資源を活用する取組を今後、皆様方と一緒に盛り上げていけたらというふうに行っております。

今後、実行委員会を設置する運びに行っておりますけれども、その中でも準備委員会では一過性に終わらない取組にというふうなお話ですとか、元々このエリアコンセプトを伯耆の国という広域的なステージをご提示させていただいておりますので、より広域的で、なおかつ継続するような取組を、皆様方のいろんなアイデアとか、事業計画とかのご提案をいただきながら、ともに練り上げてまいりたいと思われませうのでよろしくお願いいたしませう。

（山口県土整備部長）

はい。それでは私の方から日野川の大規模氾濫についてのお話でございます。村長おっしゃるとおり、これは各市町村でやってくださいという問題じゃございませう。国、県、市町村、一緒になってやっていかなきゃ大規模な避難行動計画は作れない、と同時に、避難場所の整備などもできません。そういうことなど支援をしっかりとさせていただきたいと思われませうところでございます。その中で、ハザードマップ等のお話でございます。財源上の問題でございます。国の方にも訴えかけして行っておりますけれども、ぜひともご意見を伺いながらその訴えかけを強めてまいりたいと思われませうところでございます。その中で、その他のことでちょっとあげさせていただいております。こういう問題をあげていく中で、国土強靱化に向けた各市町村の方の計画作り、これにも大きく問題点の洗い出し、関連してこようかと思われませうところでございます。この、県の方で昨年作成して行っておりますこれにつきましては、今、市町村の方にも県の方からご説明させていただいております。問題点の洗い出しのためにご検討いただきたいと思われませうが、作成に当たりましては県で作りましたバージョン、これをたたき台としていただいて、そして、各出先の県の整備局、こちらの方が全面的にバックアップさせていただきたいと思われませうところでございます。いずれにしましても一緒になって考えさせていただきたいと思われませうところござ

います。今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、それでは引き続きまして江府町長さん。

(白石江府町長)

失礼します。8月に町長になったばかりの江府町の白石と申します。ですので、あまり経験がないものですから、意見が乏しいもので、すみません。それで、実はなつたときに、3000人の楽しい町っていうのを掲げました。これ、キャッチフレーズなんですけど、後でいろんな方から、3,000と出したらまずいよみたいなことを言われたんですが、やっぱりある程度心意気を持って向かっていく必要があるということで出しました。それで、それを具体的にやっぺいこうとすると、やはりまず子供、子供さん、子育て、ここを力を入れていくということで、元々江府町自体は子育て支援、これは保育料の無償化プラス、あと、例えば公営の学習塾とか、そんなこともやって支援については結構手厚くやっぺいしておりますが、さらに婚活のところ、これは知事が日野郡に来られたときに、私は婚活バーなんかどうでしょうみたいな話をしたんですけど、そんなようなこともこれから具体的に考えていっぺいみたいなのというふうに思ひます。

あと、子供たちに未来の政策を作っぺいいただいて、将来、これだつたら江府町に住んでみたいというふうなことをやっぺいみたいなのと、これからのことでございます。あと、お年寄りです。やはり回つてみたときに、お年寄りの方がかなり本当に膝とか、腰とかもう大変な状態でおられまして。ですので、この健康寿命というものを何とか延ばしていきたい、そのためにやはり県の福祉保健部さんとか協力いっぺいいただいて一緒になつて取り組んでいきたいなのというふうに思ひます。あと、Iターンなんですけど、これもやはり力を入れていかなければいけないなと思っぺいしております、実は最近の事例で、東京の方からトイプードル飼つとるんですけど、それが一緒に住めるんだつたら来てもいい、すぐでも来てもいいよみたいな方があつたんですが、ちょっと町営住宅で、なかなかそんなことをやつたことがないということもありましたし、それと、空き家をやる場合も、ご近所の方との関係とかもありますんで、ただ、ここらあたりをうまく研究すれば、そういう需要を新たに開拓できるんじゃないかなというふうに感じているところでございます。

あと、ペットに関していっぺいしますと、結構、逆の面もありまして、餌づけを、猫に餌づけをして近所の方が困っているようなケースもありますので、ここもまた具体的な相談をさっぺいさせていただきたいと思ひます。

最後にPRということで、つい先立つて江尾十七夜開催いたしました。結構賑わいました。そのときに名探偵コナンの作者の青山剛昌さんのお兄さんが、何と来られておりまして、何か平井知事から江尾十七夜っていうのがあるよつて聞いたので来たということをおっぺいしております、これ、奇遇だなと感じたところなんですけど、実は江尾十七夜の小説を去年作つたところなんですけども、今年、それをコミック化しますので、またぜひとも宣伝にご協力いただけたらと思ひます。以上でございます。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、それでは日野町長さん。

(景山日野町長)

失礼します。日野町でございます。日野町といたしましては、やはり人口を増やしていくつていうんですか、緩やかにカーブをさっぺいしていくということでは、若い人たちに住んでいただかなくて、これはどうにもなりませんので、とにかく若い人たちの移住とか、定住、これを一つ頑張つてみようということで、今年度からいろいろと、あるいは以前から手を打つておるところでございまして、日野町といいましてはやはり里の方にどんどん出かけておるというのが実態でございまして、その人達を少なくともこちらの方に帰つていただけたらという思ひであります。そ

ういうことでUターンの人を主にして、いわゆる住宅、若者の所帯向け住宅を建てたり、改築したり、買ったり、そういうものに対しての支援を行っておりまして、現実、かなり効果が出かけておるところであります。そして、孫ターンと言っておりますけれども、お父さんお母さんはなかなか帰らなくても、おじいちゃんおばあちゃんのおる日野町に孫さんが帰って軟式テニスでしっかり全国大会にも行けると、こういうようなことで、お孫さんにも帰っていただく、これに対しての支援、いわゆる日野町あゆ奨学金というようなものを出したり、あるいはお父さん方も帰っていただいて実家で生活してください。しかし、職場は離れるということではできませんので、米子に出ても30キロですので車で40分、このぐらいです。南部町に行っても、もっとそれよりは近いということがありますので、通勤費の支援も思いついて、今、やっているところでございます。現実もそういう希望も出て支給もしておるということでございます。

先ほどから倉吉の市長さんもおっしゃってございましたけれども、そういういろいろな取組を、いわゆる町外の人に知っていただくという情報をいかに提供をしていっていいのかというのが大きな課題であろうと思っております。我が日野町におきましても、ふるさと住民表という制度を2月の22日に、いよいよ立ち上げたところでもあります。ここには、いわゆる住民票を、お金も何もかかりません。希望をされる方には住民票を提供いたしますと、そういうことで日野町の支援員をやっていただきたいなということでもあります。それには情報を毎月提供をしていくと、日野町の魅力を発信していくということでございまして、全国的にも初めての取組でありましたが、昨日現在で95名の方が登録をされておりました、100名にはあと一歩、もっと将来の目標としては300人ぐらいを目標にしておりますが、なかなかこれもやってみますと、皆さん故郷が元気になるももらいたいし、情報ももらいたいし、願わくば帰りたいし、ふるさと納税もしたいと、こういう方は結構いらっしゃるということが分かりました。さらに進めていきたいと、こういうふうに思っております。そして県の方にもたいへんお世話になりましたけれども、遊休施設の元日野サンプラザをいよいよ取得ができて、8月3日に登記完了ということになりました。これにつきましては有効活用検討委員会というものが提言をしてくれておりますので、それにあわせて可能なものから取り組んでいきたい、県の方にもいろいろご相談をさせていただきますのでご支援をお願いしたらと、こういうふうに思っております。

それから先ほど来、話が出ております観光の面につきましては、大山開山1300年祭が行われますが、これも国の遺産になりました。隣の方には島根県の奥出雲ではたたらで、これも遺産になりまして、ちょうど狭間に我々日野郡3町が入っておるわけでございます、これらと連携を取って、奥日野たたらをのりづくりプロジェクトというものを立ち上げていこうと思っております。それには国の地方創生の加速度交付金の2次募集で内示をいただきましたので、これを使って着実に一歩一歩進んで両方の遺産を繋げていきたいと、そしてたたらを皆さんに知っていただきたい。調べれば調べるほど新たな事象が出て来るとおることでございます、そして日野町が、我が日野町は魅力のある町だと、帰って住んでみたい、特に若い人達が住みやすい、そういう環境づくりを進めていきたいと、こう思っておるところでございます。以上でございます。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、続いて日南町長さんお願いします。

(増原日南町長)

時間がちょっと気になっておりました、最後でありますけれども、日南町ではコンパクトビジョンによる地域創生ということで進めております。地域創生というものを考えたときに、ちょうど今、8月26日までに国に報告しろという、多分文章が来ていると思うんですけども、やっぱりこれを地域創生をしっかりとやるためには、エポックメイキングなところだけ捉えるんじゃなくて、ドラスティックに全体的にどのような評価があるのかということもしっかり捉えていかないと私は成功しないというふうに思っています。日南町という町は過疎高齢化、鳥取県下で一番高齢化の町であります。今49%という町でありますけれども、非常に死亡者が多い、それで合計特殊出生率

は多分県下でトップだと思っています。

それと、特に鳥取県の支援によります保育料の無料によりまして、4月以降非常にそういうお子さんを持った方の帰郷が多いというふうなことでありますけども、やはり自然減というのはどうしょうもないと、逆に社会増でいいますと今回KPIでA評価、ABCというランクがあるんですけども、A評価を取った中でUターンというのを見てみると5年間で30人というUターンを見ていたのが、単年度で48人と、これは多分目標が低過ぎたと私は思っているんですが、これを100名に上げたんですけども、そういうふうなことがあっていし、その中の大体45人の内23人が20代から30代ということで、ある面ではいわゆる創造的過疎といいますが、過疎化を進め、人口が減るんですけども、世代交代がうまく図られてきているなあというふうなことを強く感じています。また、農林業研修生についてもAなりBなりの評価であって、非常に農林業というものを私どもは成長産業として捉えていますので、その成果はしっかり上がってきたのかなというふうなことを思っておりますので、よりブラッシュアップした地方創生というのを進めていきたいというふうに思っております。

もう1点少しお願いなんですけども、先ほどから子育てという話が出ております。鳥取県非常に平井知事のご協力によって、尽力によりまして子育てが非常に進んでおりますけども、これから先、子育てというのは保育園までじゃないわけですよ。小学校・中学校出ても子育てということがあるわけです。日南町には高校はございませんので高校ということまでは言いませんけども、そうしたときに日南町の中の地方創生では中学生のうちに、1つの例を上げますと中学生のうちに英検検定率を30%にしようということを今やっているわけです。それで、今これが18%ということでB評価だと。それで、やはりこういうふうな給付型ではない、鳥取県にいくと例えば中学校3年生までに英検の何級が取れるよとか、そういうふうなやはり特色あるところの給付型でない教育というふうなものもやっぱり進めていかないといけないんじゃないかなというふうに思っております。ぜひともこういうことにつきましても県のお力なりご協力・ご理解を賜りたいというふうに思っております。以上であります。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、それでは最後に鳥取市長さま。

(深澤鳥取市長)

そうですか。もうないかなと思っていたんですが。冒頭、人口動向についてご説明をいただきました。非常に目標推定より好水準で推移しているということで、これは大変いいことだと思いました。この地方創生のいろんな取組が功を奏しているというふうに思います。地方創生総合戦略5年間ということでもありますけれども、5年ということではなくて、もう少し長期的にといいますか、将来見据えているんな取組を今こそ、この鳥取県で進めていかなければならないというふうに思ったところであります。社会動態の方、鳥取市も例に漏れずこの若い方が転出をするということが人口減の大きな要因になっているわけでもありますけれども、今、企業進出等も続いておりますので鳥取市の鳥取県の地場産業、地元企業のいろんなよさとか状況、それから鳥取県のいろんな情報、もっと大いに発信をしていくと、これは県内外でありますし、在学中の児童・生徒さん、学生さんにももっともっとそういった情報発信に取り組んでいかなければならないのではないかなと人材確保の面でも思っております。また、移住定住につきましては鳥取市は平成18年から取り組んできておまして、相談窓口相談いただいて定住につながった方が先月の4日で2,000名になりました。総合戦略では5年間で1,100所帯2,000名以上というのを目標に掲げておりますが、この状況を見ますと今まで大体6割強が30代までの方、特に昨年は8割を超える方が大体若い世代の方だったということで、意外とリタイアされた方というよりも、若い世代の方がこの地方での暮らしを志向しておられるのではないかなというふうに思っております。もっともっと情報発信していくことによって移住定住の促進につながっていくのではないかなというふうに思っております。

また、先週だったと思いますが、総務省の方が国内版のワーキングホリデーの取組を進めていこうと打ち出しておられまして、また、具体的な内容はまだまだちょっと分からないところもありますけれども、ぜひともこの鳥取で受け皿といいますか、そういった若い方を受け入れていくような態勢を整えていけば、いずれは移住定住等にもつながっていくのではないかなというふうに思っております。また、子育て支援の取り組みでありますけれども、いろいろ県の方でもご尽力いただいておりますが大変ありがたいなと思っております。保育士の確保対策、そして子育て支援員の研修会等の開催をいただいておりますが、必要に応じてまたこの回数等も増やしていただくようなこともご検討いただければ大変ありがたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。以上でございます。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、ありがとうございます。それでは知事お願いいたします。

(平井知事)

長時間にわたりましてありがとうございました。江府町長の方からは健康寿命のお話が出ました。ぜひ、清新な感覚で町政を改革をいただければと思います。健康寿命は鳥取県としても、いろいろモデル的なところがございまして、江府町は鳥大との連携で、例えば塩分の取り過ぎなどを勧めるとか、そうしたことで実績も上げてこられました。そうした健康寿命対策ですね、健康づくり、これも1つのちょうどテーマとなり得ると思いますので、取り組ませていただきたいと思います。また、十七夜といった地域の魅力のPRもご協力をさせていただければと思います。

また、景山町長の方からUターンが進んできたこと、孫ターンの話、あるいは通勤補助等々いい事例のお話がございます。ふるさと住民票という先進的な取組、注目をさせていただければと思います。日野サンプラザは長年の懸案で、これまでもちょっと過去の経緯もあったもんですから、県も関わらせていただいております。いい形でこれが地域の拠点となるように、今後も協力をさせていただければと思います。また、奥日野たたらの里、大分島根県が盛り上がってきていまして、この勢いをこっちにつなげるといいかたちになるのではないかなと思われまので、ぜひこちらの方でも、今までもたたら街道の組織がございますが、もう一度ブラッシュアップして大山 1300 年祭に絡めてこれを盛り上げていければと思っておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

また、増原町長の方からいろいろと事例のお話もございました。コンパクトビレッジを進めることで日野川の里ができましたら、現実には県境を越えてお客様も来るぐらい、多分想定以上の集客になっているんじゃないかなと思います。そうしたことなど、実際、出生率のアップであるとか、親御さんの転入なども続いているということでございまして、そうしたモデルを作っていただければと思います。今、ご指摘いただきました教育のことは、何でしたら教育長の方からまたお話してもらってもと思うんですが、これは、私、大賛成でありまして、教育委員会制度も変わってきましたので、この際首長の皆さんと十分意思を共有させていただいて、例えば英語なら英語全県でやろうということをお我々で指導して、教育委員会を引っ張っていくと。それで、現場の先生方も基本的には子供達の成長は喜ばれるわけありますから、単なる運動だけのことにならないと思います。そこは鳥取県らしい教育というものをやって、それで初めて安心して子育てができる故郷になると思っておりますので、これぜひ、皆様のご協力もいただければと思います。

深澤市長の方からいろいろとお話があった上で、ワーキングホリデーの提案がありました。これ、ちょっと調べさせていただいて、手を上げてやっていけるのであれば取り組んでみてはどうかと思います。また、子育て支援研修制度、未経験者の研修、子育て支援員の研修についての充実もちょっと検討させていただければと思います。きょう全体を通じまして、地方創生はぜひ鳥取県から主導してやっていこうという声相次いで上がりました。そういう中、国が少し交付金のことだとか、また1億総活躍にシフトし過ぎてないかとか、そういうご意見もありましてこの辺はぜひ今日の総意としてぶつけていければと思います。家庭内保育の充実、そういう意味で

給付制度について肯定的なご意見が多く聞かれましたし、あわせて企業の取り組みを求めようという声も相次いで上がりました。この辺、今の保育の在り方の研究会の中で議論に反映してもらおうと思いますし、また、そうした国の労働行政とも、少し私の方からも楔を打たせていただければと思います。

教育とか人材育成とか、あるいは果樹、林業、そうした産業や人材の育成についてのご意見があったところでありますし、大山がインバウンド観光についてもご指摘がございました。9月の補正予算の中でも盛り込ませていただきたいと思いますし、また、皆さんと一緒にこうしたことを前に進めていければと思います。今日、本当に限られた時間ではありましたが、全ての市町村長さんから非常に建設的なご意見をいただきましたこと、感謝を申し上げたいと思います。地方創生は鳥取から、そして子育てあるいは産業政策、そうしたパイオニアを目指して、皆さんのアイデアを旨としてやってまいりたいと思いますので、今後ともご協力方、よろしくお願い申し上げます。

4 閉会のあいさつ

(小倉元気づくり総本部長)

それでは、締めのご挨拶を小林町村会長さまにお願いいたします。

(小林若桜町長)

それでは、最後のご挨拶をさせていただきます。平井知事におかれましては日頃から各市町村の振興につきましては本当に多大なご尽力をいただきまして、ありがとうございます。今日は地方創生につきまして、特に子育てとか、あるいは移住定住につきまして意見交換をさせていただきましたし、また、情報交換というようなこともございまして、非常に私達、有意義な会だったという具合に思っておりますし、また、県の方も市町村の気持ちも十分にご理解をいただいたという具合に思っているところでもございます。また、市町村におきましては環太平洋連携協定による農林業の振興とか、さらには地方創生としての子育ての充実、移住定住の促進、広域での観光振興、また、防災対策等課題はたくさんございますけれども、お互いに県と市町村が良きパートナーとなって、課題解決に向けて取り組みたいと思いますのでよろしくお願いいたします。また、明日は政府の方が経済対策の閣議決定もあるようでございますから、また、これまで以上に県と連携をしていきたいと、そのように思っているところでもございます。各市町村も予算編成してみますと、なかなか、年々えらくなつとるというような状況でもございますので、地方財政の厳しさも実感しているところでもございます。また、これまで以上に県・市町村の発展のために、皆さんと一緒に鳥取県を盛り上げていきたいという具合に思っているところでございます。本当に今日はどうもありがとうございました。

(小倉元気づくり総本部長) 長時間にわたりありがとうございました。以上で終了させていただきます。ありがとうございました。